

聖書の集いガイド

(司会者用)



2014 年版

「聖書の集いを始めます（わたしは今日、司会をつとめさせていただきます〇〇です。どうぞよろしくお願ひします）」

1. 短い自己紹介

（皆がよく知り合っている場合、自己紹介は必要ありません）

「初めに簡単な自己紹介をします」

「わたしは〇〇教会の〇〇です」

2. はじめの祈り（司会者が唱えます）

はじめの祈りを唱えます。

（父と子と聖霊のみ名によって。アーメン）

主イエス、あなたは福音書をとおして、
きょうもすべての人に語りかけてくださっています。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでも
わたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」

わたしたちは、このあなたの呼びかけに
ここに集まりました。

あなたは、ご自分のもとに来たすべての人を
歓迎してくださいます。

わたしたちも互いに心から歓迎しあうことができますように。

（きょうは〇〇さん、〇〇さんが、
この集いに初めて参加してくださいました。

新しい仲間を与えてくださったことを心から感謝いたします。)

主イエス、わたしたちは
福音書をとおして伝えられたあなたの姿を見つめます。
あなたの声に耳を澄まします。
あなたとともに時を過ごそうとしています。
わたしたちがあなたの心といのちに触れ、
お互いのことばに耳を傾け合い、
共に祈ることをとおして、
新たな力をいただくことができますように。アーメン。

3. 次の日曜日のミサの福音の箇所をゆっくり読む

(司会者の隣の人が1人で読む。あまりに長い場合は何人かで分けて読むとよい)

「聖書と典礼の福音の箇所を開いてください」

「次の日曜日のミサの福音の箇所をゆっくり読んでください。

〇〇さん、お願いします」

4. 「福音のヒント」を読む

(席順で、段落ごとに何人かで分けて読むようにする)

『福音のヒント』を『教会暦と聖書の流れ』から段落ごとに順番に読んでください」

5. もう一度、福音の同じ箇所を読む

(さらに席順で次の人が読む。聖書朗読が同じ人に当たった場合は、他の人に代わってもらう)。

「もう一度、同じ福音の箇所を読んでください。〇〇さん、お願いします」

6. 5分ぐらい各自が沈黙のうちに福音の言葉を味わう。

「それではしばらく、沈黙のうちに一人ひとりでこの聖書の言葉を味わってください。5分間ほど時間を取ります」

7. 心に響いたことを分かち合う。

(席順に、なるべく一言でも感じたことを話す。ただ、無理に話さなければならない、という圧迫を感じないように。最初は3分を目安に。話したい人全員が話すまで同じ人が2度3度話さないように)

「それでは順番に心に響いたことをお話してください。まず3分を目安にお願いします。パスなさっても結構です。

人が話しているときはメモを取らないでください。『福音のヒント』を分かち合うのではなく、福音の箇所そのものを分かち合います。議論、批判、質問はしないのがルールになっています。それでは順番に〇〇さん、お願いします」

「ありがとうございました。次は〇〇さんお願いします」

「一周しましたが、パスなされた方、もしお話しすることがあればお願いします。・・・ありがとうございました」

「まだ時間が少しありますので、お話をさりたい方はどうぞ」

(残り時間を10～15分残して、8に進む)

8. 神が今日のわたしたちに何を呼びかけておられるかを受け取るために、しばらく沈黙のうちに祈る。

「それでは神様がわたしたちに今日何をよびかけてくださっているかを心の中で受け取るために、沈黙のうちに祈りましょう。後で自由な言葉で祈りをささげていただきますので、そうもうしあげるまで、沈黙のままお祈りください」(3分間を目安に)

9. 参加者が自由に自分のことばで祈りをささげる

(祈りの結びに「アーメン」と言い、皆で「アーメン」を繰り返す。最後は主の祈りで結ぶ)

「自由な言葉で祈りをささげてください。祈りの最後は『アーメン』で結んでください。どなたからでもご自由にどうぞ」

(あわてずにゆっくり待つことが大切)

「よろしいでしょうか？」

「それでは、言葉にならなかった思いや願いも込めて、ご一緒に主の祈りを唱えましょう」

天におられるわたしたちの父よ、
み名が聖とされますように。み国が来ますように。
みこころが天に行われるとおりに 地にも行われますように。
わたしたちの日ごとの糧を今日(きょう)もお与えください。
わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。
わたしたちを誘惑におちいらせず、悪からお救いください。

10. 結びのことば (司会者が読みます)

これで聖書の集いを終わります。
わたしたちはこの集いの中で、
福音書の言葉を一緒に味わいながら、
わたしたちとともにいてくださる神様・イエス様を感じ、
その神様・イエス様に力づけられました。
また信仰の道とともに歩んでくれる仲間の存在にも
励まされています。

最後に一つだけわたしたちは約束をします。
それはきょうここで聞いたことを
わたしたち一人一人の心の中にだけ収め、
ほかの場所で話さないことです。

それぞれの生活の場に戻っていくわたしたちを
神様が豊かに祝福してくださいますように。
どうもありがとうございました。

★ 聖書の集いが目指しているもの

1. わたしたちの現実の中で神がともにいてくださることを発見する
2. とともに信仰の道を歩む仲間作り
3. 霊的成長

★ 気をつけるべきこと

「安心」ということは分かち合いが成り立つための前提条件です。参加者が安心して分かち合いをすることができるために、次の点に注意します。

1. 集いの場で聞いたことを他の場で話さない

そこで話されたことが、他の場所で他の人に伝わるならば、だれも安心して話すことはできません。「分かち合い」で聞いたことはわたしたち一人一人の胸の中に収めることを約束します。言った本人に対しても、別の場で「あの時あなたはこう言いましたけれど…」というような言い方はすべきではありません。秘密を守ることができないグループは簡単に崩壊してしまいます。

2. 支配するのは神の霊

人が集まるところに「人を支配したい」という誘惑が生まれます。「教えたい」「コントロールしたい」「自分が一番になりたい」その誘惑に打ち勝つことが必要です。限られた人だけが長時間話すのも禁物です。司会者やグループの代表は、奉仕者であるという意識を徹底しなければなりません。

誰かが聖書の箇所について質問をしたとき、それについて知識を持っている人が教えることは簡単です。しかし解説を始めた瞬間に「分かち合い」は終わってしまいます。この点に注意が必要です。何もすべてを理解する必要はないのです。話が途切れたとき、沈黙を埋めようとして話す必要もありません。その時は、神が沈黙のうちにわたしたちに語っていることを聞けばよいのです。なお、終了時間を守ることも大切です。

聖書の集いは、だれか人間が支配する場ではなく、すべての参加者が一人一人の心に働きかける聖霊の導きに従おうとする場なのです。

3. 相手を批判しない、議論しない

自分の発言が人から批判されると、ある場合には非常に傷つき、もう二度と話すまい、と思うようになります。安心のためには「批判しない」という原則も大切です。大切なのは、人の言葉に耳を傾け、人の思いをそのまま受け取ろうとすることです。わたしたちは議論するために集まっているのではなく、霊的に成長するために集まっているのです。

(2014.9koda)